



私の なんとか しなきゃ!

Vol. 9

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」サイト (nantokashinakya.jp/)では、東日本大震災の被災地を支援しているプロジェクトメンバーの活動状況について紹介しています。

PROFILE

1973年アメリカ・ボストン市出身。99年、エベレストの登頂に成功し、7大陸最高峰世界最年少登頂記録を25歳で樹立。2000年からエベレストや富士山での清掃活動、学校建設などに取り組む。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。



今、日本が一体になる時

野口 健

アルピニスト

NOGUCHI Ken

昔から、外交官の父親がよく口にしていた言葉があります。「物事にはA面とB面がある。観光客はA面だけ見て帰ってしまうが、本当の姿はB面を見ないと分からない」。小さい時から海外で暮らす機会が多かったのですが、そんな父の教を胸に、どこに行っても一つの国のあらゆる部分に目を向けるよう心掛けてきました。

山に登るようになってからもそうです。実を言うと1997年に初めてエベレストに登頂するまで、私はよく写真で見る「美しい山」をイメージしていました。でも実際に行ってみると、そこにはまったく別の世界がありました。人間が残した“ごみ”があちこちに散らばっていたんです。その光景を目にした時のショックは、今でも鮮明に覚えています。

このままではいけない。そんな思いで10年前から、地元の山岳民族シェルバを巻き込んで清掃活動を始めました。いくら僕らがきれいにしても、地元の人たちの意識が変わらないと持続しない。だから彼らと“一緒に”やるのが大

切でした。

最初のころは「なんでごみを拾う必要があるの?」という雰囲気もありました。でも何年か続けていくうちに、彼らの中にも自分たちの山という誇りが生まれ、今では率先して活動するまでになりました。ネパールやケニアで日本が支援したごみの最終処分場を視察した時も、JICAの人たちは何よりもまず、地域住民と信頼関係を築いていくことを大切にしていました。やはり、何事も“人”ありきなんだと感じました。

そして今、これまで国際協力を続けてきた日本を、世界中が応援してくれています。

3月11日に東日本大震災が発生してから数日間、私はただテレビの映像を前に、この現実が信じられず、ほうぜんとすることしかできませんでした。でもふとある瞬間、われに返ったんです。「被災地の人たちはもっと大変なんだ。東京にいる僕らが落ち込んでいる場合じゃない」と。そこで自分に何ができるかを考え思い付いたのが「寝袋支援プロ

ジェクト」でした。

私も山に登る人間ですので、寒さがどれだけ肉体的・精神的に辛いものかを身をもって知っています。避難所で毛布一枚にくるまって震える被災者の方々を見て、今すぐ彼らに温かい寝床を届けたいと思い、たくさんの方の協力を得て、1,916個(4月8日現在)を届けることができました。でもまだまだ十分ではない。東北の甚大な被害、懸命に生きる人々を目にして「私たちが一人一つずつ、何かを背負って、乗り越えていかなければならない」と強く感じています。

今こそ、日本が一体となる時です。世界中から寄せられた支援を糧に、みんなで思い、行動し続ければ必ず復興の道は開けてくる。そう信じています。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。
詳しくはこちらから→ nantokashinakya.jp